

わがまちを災害から守りたい 消防団の若い力

防災意識の普及啓発、火災や水害時の出動など、地域と消防署をつなぐパイプ役として活躍する消防団。区内には、四谷(3分団103名)・牛込(4分団150名)・新宿(12分団268名)の3つの消防団があります。仕事や学業を持ちながら昼夜を問わず活動する中、若い団員が消防団を活気づけています。

「6月の消防操法大会には、ポンプ操作の3番手として出場しました。ベテランに混じって訓練に参加すると勉強になります」と話すのは濱島孝矢さん(新宿消防団第4分団)。「子どものころから地域の人のために働きたいと思い、18歳になったのを機に入団しました。先輩たちのように早く地域に溶け込んでいきたいです」。

飯星翔子さん、中越玲子さん(四谷消防団第3分団)は、消防少年団を経て昨年2月に入団。「少年団の活動がきっかけで、現在は救急救命士を目指しています」と中越さん。服飾関係の仕事に就くことを目指す飯星さんは「新宿には大きな店舗が多く、防災の知識と心構えは将来にもきっと役立つはず」と意欲的です。

団員の不足や高齢化が課題である今、「若い団員の入団で、地域の防災訓練にも若い世代の参加が増えました。若い人が興味を持てば、住民の皆さん全体の防災意識も高まると思います」と、原田義明さん(牛込消防団第4分団副分団長)をはじめ活動歴の長い団員も大きな期待を寄せています。地域の安全・安心を守るうと熱い思いで活動する若い世代に、今後注目です。



▲NPO法人で安全・安心について取材活動をしている濱島さん(写真中央)訓練では救命・救急活動の実践知識を習得します

救急技術などを学んで地域活動に役立ちます



▲ともに活動する山来さん親子(牛込消防団第4分団)母親のむつ子さん(写真右)の勧めで麻友さんも入団



▲「女性でも活躍できると思います。先輩からたくさんのことを学びたい」と話す山岸佳佳さん(新宿消防団第8分団・写真左)

▼「ぜひ訓練に参加してくださいね」地域の防災訓練で活動をPRする飯星さん(写真左)、中越さん



▲「夢は消防士」と意欲満々の兵頭拓也さん(牛込消防団第4分団・写真右から2人目)



▲毎年10月の区内消防団合同点検では日ごろの訓練の成果を披露しています

消防団は消防署と同じ消防機関で、団員は特別職(非常勤)の地方公務員です。各消防団の区域にお住まいか勤務する18歳以上の方が入団できます。

入団の問合せ ●四谷消防団本部 ☎(3357)0119 ●牛込消防団本部 ☎(3267)0119 ●新宿消防団本部 ☎(3371)0119

新宿区役所本庁舎・第1分庁舎・第2分庁舎の代表電話は ☎(3209)1111、新宿区ホームページは <http://www.city.shinjuku.tokyo.jp/> です。

あふれる情熱を胸に

地域活動を担う若い世代は、地域にとっても心強く、世代をつなぐ架け橋になっています。今回は、新宿のまちで活躍する若い力を紹介します。

問合せ
区政情報課広報係(本庁舎3階)
☎(5273)4064へ。

わたしたちのメッセージを届けたい ミニFMの若い力

「皆さんこんにちは!おちあいFMです」。マイクに語りかけるのは目白大学放送研究会の皆さん。毎週土曜日午後、「落合三世代交流サロン」(西落合1-31-24)の一角にある専用ブースから放送するミニFM「おちあいFM」(86.9MHz)のDJ(ディスクジョッキー)を交代で担当しています。仲谷太一さん(2年生)は、「初めてリクエストがあったときはうれしかった。たくさんの人に聞いてもらうにはどんな企画がいいか、今は試行錯誤の最中」と話します。ミニFMでの活動を始めたことで地域の方との接点も増え、得るものがたくさんあると実感しています。

子どもから高齢者まで誰もが自由に集える場として昨年4月にオープンした

落合三世代交流サロンは、地域の方が中心となり、さまざまな事業を運営しています。ミニFMを担当する櫻井晴彦さんは、「若い人が語ることで地域のメッセージを幅広い世代に届けられます」と、学生DJに期待しています。ときには、サロンに遊びに来る小学生がDJとして参加することもある「おちあいFM」。ボランティアで放送を応援してくれる方も現れるなど、ミニFMを通して世代を超えた交流の輪が広がっています。

問合せ ●落合三世代交流サロン ☎(3954)2740
[開館日時]月~土曜日、午前10時~午後4時

地域情報のほか新しいコーナーも企画中です



▲大学生のお兄さんお姉さんは子どもたちに大人気



リクエストもお待ちしております!

▲笑顔で放送中の仲谷さん

◀「世代を超えた共同作業の場になっていますね」運営に協力する目白大学OBの田中謙士さん(写真左)



▲子どもが出演中のスタジオで「将来はインターネットでも放送できるようにしたい」と夢もふくらみます



▲放送終了後は地域のお祭りから懐かしの歌までさまざまな話題で交流を深めます